

我が県土  
支え育む  
希望郷



# 美しい 県土づくりNEWS

2020年

9月

岩手県 県土整備部  
手づくり広報誌第194号  
令和2年9月30日発行  
編集 県土整備企画室

## 目次

- 2 サン・アンドレス公園が開園しました！！
- 3 岩谷橋の架替工事が進められています！
- 5 達曽部地区登坂車線が供用開始しました！
- 6 一級河川岩崎川河川改修事業が概成しました！
- 8 北いわて建設 ICT セミナーを開催しました！
- 10「工業高校の生徒との意見交換会」を開催しました！
- 11 釜石港における RORO 船トライアル寄港を実施しました！
- 12 令和2年防災功労者内閣総理大臣表彰県内団体が受賞！

# 三陸復興

## 大船渡港野々田緑地 サン・アンドレス公園が開園！！

県が、復旧工事を進めてきた大船渡港野々田緑地（サン・アンドレス公園）が完成し、令和2年8月1日に開園しました。新たに整備した防潮堤の圧迫感の緩和や海への眺望を考慮し、公園内に築山を整備するなど、多くの人々が港の景観を楽しみながら利用する施設として活用されることが期待されます。



▲全景写真



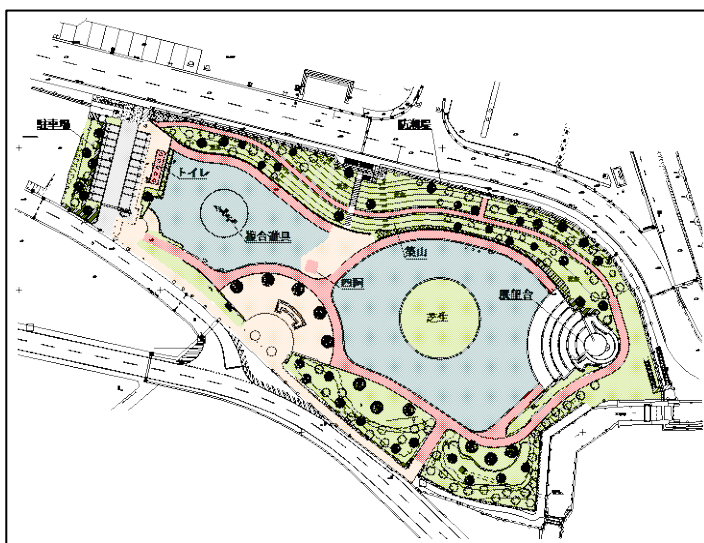
▲複合遊具

# 【災害関連港湾環境整備施設災害復旧事業】大船渡港 サン・アンドレス公園が開園しました！！

沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

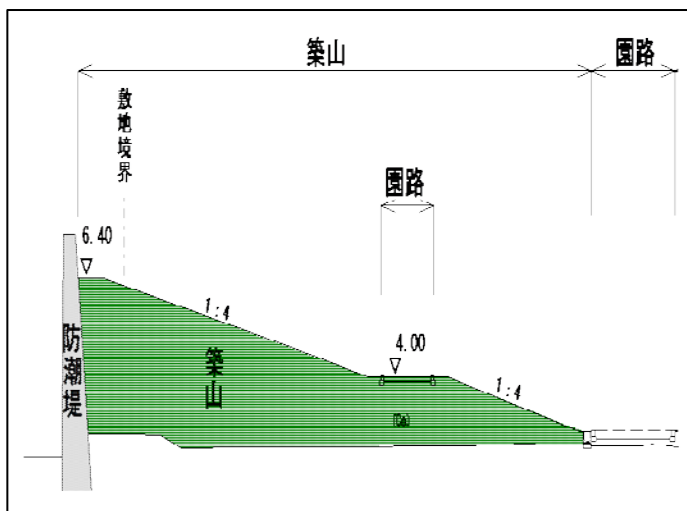
東日本震災津波により、ほとんどの施設が破損・流出した大船渡港野々田緑地（愛称：サン・アンドレス公園）が令和2年8月1日に開園しました。

被災後は、大船渡港の防潮堤工事の資材置き場などに利用され、防潮堤工事の進捗に伴い平成31年2月に復旧工事に着手し整備を進めてきました。工事では、多目的広場、展望台、児童や幼児を対象とした複合遊具、四阿（あずまや）やベンチなどの休養施設、トイレ、水飲み場、駐車場などの便益施設を整備しました。また、新たに整備した防潮堤による圧迫感の緩和や海への眺望を考慮し、公園内に築山を整備しており、多くの人々が港の景観を楽しみながら利用する施設として活用されることが期待されます。



## 築山の検討

築山の高さは、防潮堤の高さ T.P.+7.5m に対し転落防止を考慮した T.P.+6.4mとし、斜面の傾斜は、腰をかけるのに適した 1:4.0 として、中腹に園路を設けることとしました。



## 【愛称：サン・アンドレスの由来】

慶長16年（1611）スペイン使節のセバスチャン・ビスカイノが、伊達藩主（伊達政宗）の許可を得て松島以北の測量を行った際、大船渡港に入港した日が聖アンドレスの祭日だったことから、これを記念して大船渡湾を「サン・アンドレス」と命名したという故事が由来とされています。



# 都市計画道路荒瀬上田面線 岩谷橋の架替工事が進められています！！

県北広域振興局土木部二戸土木センター

岩谷橋は、二戸市中心部の落久保地区と五日町地区の街並みを結ぶ橋として、また、九戸城や奥州街道など歴史的な遺産に囲まれ、馬淵川や折爪岳など周辺の素晴らしい眺望を楽しめる橋として、明治から現在に至るまで地域に親しまれている橋です。

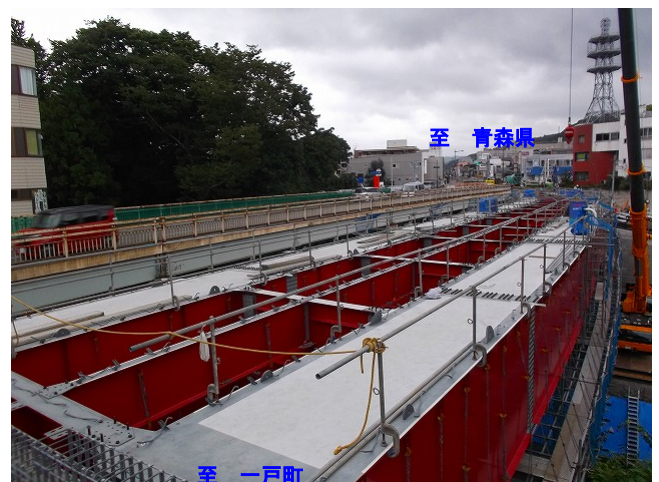
現在の岩谷橋は、国道4号の橋梁として昭和25年に完成してから70年が経過し老朽化が進み、また、歩行者も多いうえに岩谷橋のある交差点は右折車線がなく、慢性的に渋滞が発生していることから、「老朽化対策」「歩行空間の拡大」「渋滞の緩和」を目的として、平成21年度に事業着手し、現在架替工事を進めているところです。

なお、商店街や家屋が立ち並ぶ市街地の交差点手前にあることや、通学路や通勤路として利用され朝夕の渋滞が激しいことから、橋梁架替にあたっては、通行止めを極力避ける必要があります。

橋の架替と併せ前後道路の線形改良と拡幅、交差点改良(右折レーンの設置)を行うことにより、隘路を解消し、安全安心な通行空間の確保と街路としての機能向上が図られます。



令和2年9月23日までの桁の架設状況(クレーン架設完了)





完成までの道のりは長く、**最後には難工事**も待ち受けております。

① 準備

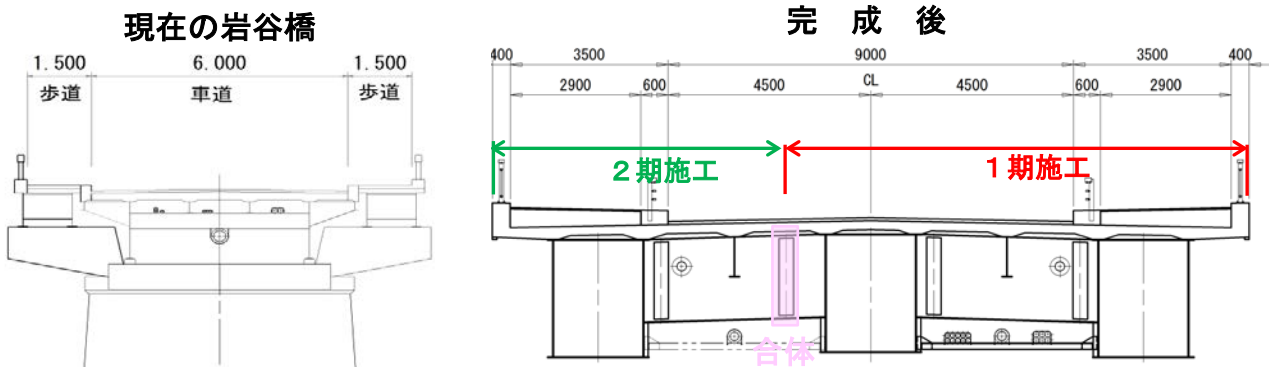
新橋の架設ルートを確認するため市道を拡幅、市橋の架替

② 1期施工(暫定)

新橋の橋脚を設置→仮橋を設置→既設の岩谷橋の一部を撤去→両橋台の半分を設置→半車線分の新しい橋梁を架設→床版と舗装を施工し暫定で供用開始。

③ 2期施工(完成)

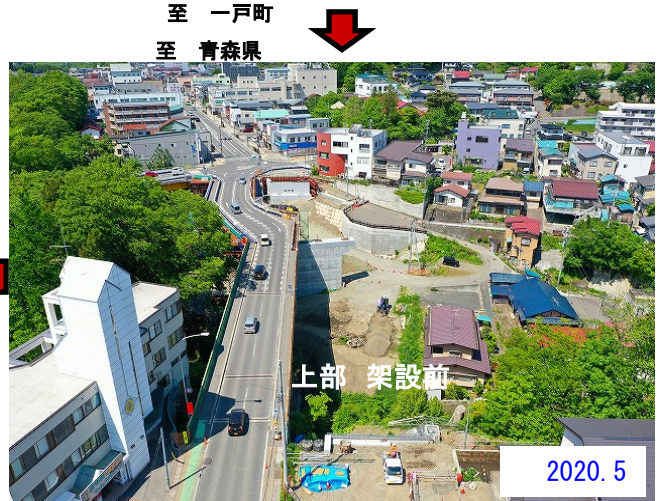
仮橋と既設の岩谷橋の残りを撤去→両橋台の残りを設置→残り半車線分の橋梁を架設→床版→**先に設置済みの桁と合体**→①②間の間詰作業と舗装を施工→歩道の施工で完成。



まだ新橋の橋脚のみ



仮橋への供用を開始



桁の色は古代朱(黒っぽい落ち着いた朱色)です

1期施工分の橋台が完成



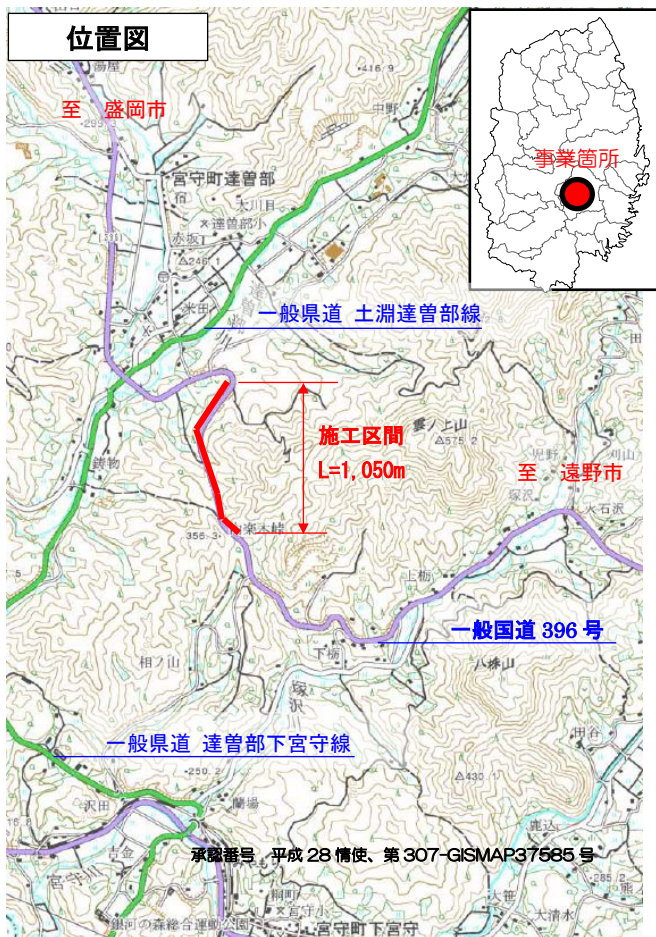
# 【防災・減災国土強靱化3か年緊急対策】一般国道396号 達曽部地区登坂車線が供用開始しました！

県南広域振興局土木部遠野土木センター

本路線は盛岡市と遠野市を結ぶ幹線道路であり、緊急輸送道路にも指定されている重要な路線です。達曽部地区は、急峻な地形に加え路肩が狭いため、登坂走行中の大型車の速度低下や降雪時に路肩に寄せた雪の影響で車両のすれ違いが困難になるなど、安全で円滑な交通に課題がありました。

これらを解消するため、防災・減災国土強靱化3か年緊急対策事業により、登坂車線および堆雪帯を整備し、令和2年8月に供用を開始しました。

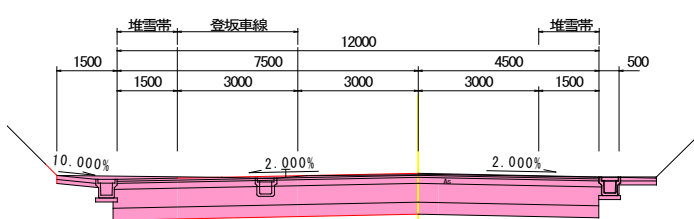
今回の供用開始により、冬期間を含め安全で円滑な通行が期待されます。



計画延長	1,095m
計画幅員	9.0(12.0)m
道路区分	3種3級
設計速度	50km/h
事業期間	H26～R2
全体事業費	約570百万円



標準断面図





# 【床上浸水対策特別緊急事業】 一級河川岩崎川河川改修事業が概成しました！

盛岡広域振興局土木部

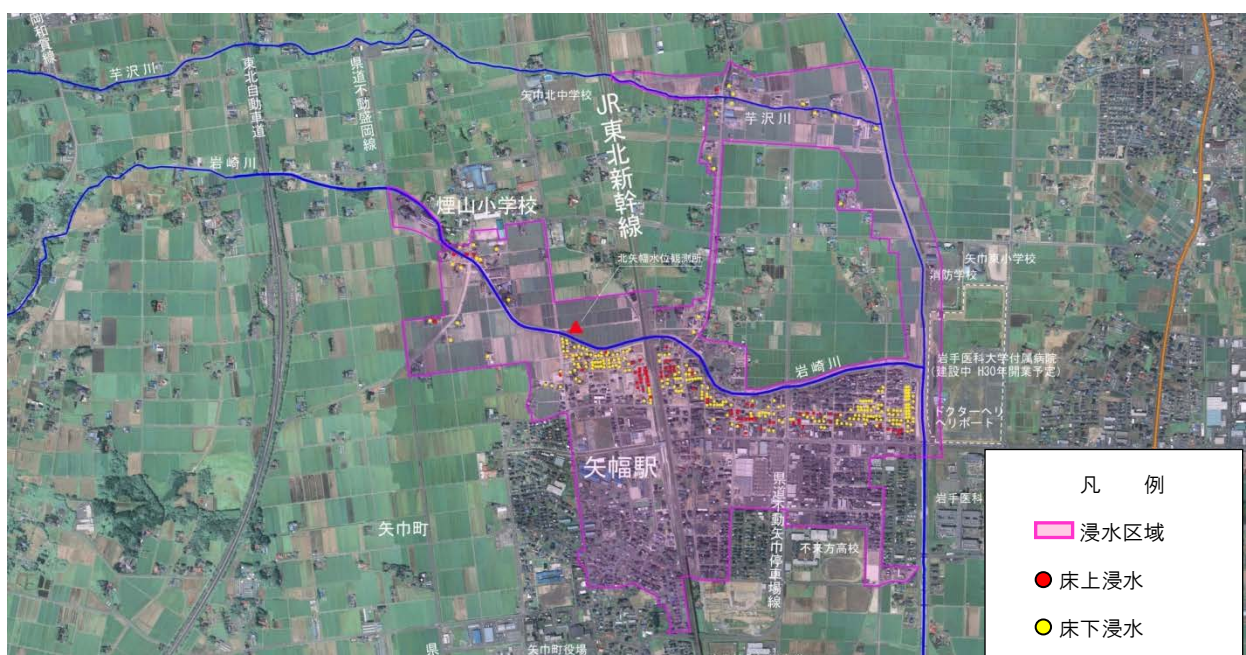
県が平成2年度から整備を行ってきた一級河川岩崎川河川改修事業が概成しました。一級河川岩崎川は、矢巾町から紫波町を経て北上川と合流する延長18kmの河川です。改修区間は、当初、北上川合流点からJR東北本線交差部付近までの約6.5kmの予定でしたが、平成25年8月9日の豪雨（日雨量272mm、最大1時間雨量72mm）により、岩崎川が越水しJR矢幅駅周辺の家屋に浸水被害（床上96戸・床下286戸）が発生しました。

このため、平成26年度から「床上浸水対策特別緊急事業」を導入するとともに、事業区間を約1.2km延伸し家屋の床上浸水被害の解消に取り組みました。

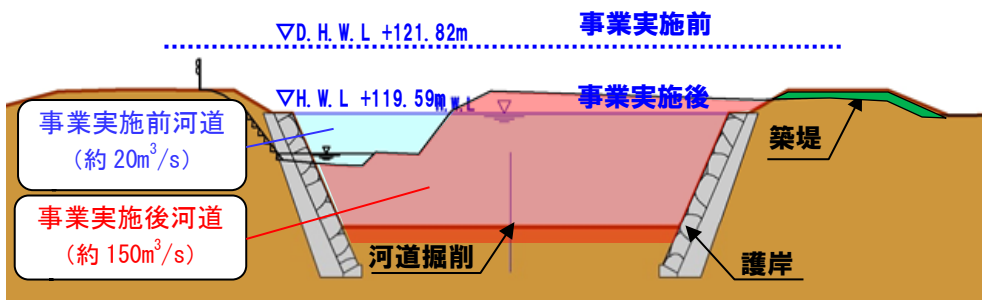
## ■ 平成25年8月9日豪雨浸水被害状況（矢巾町又兵衛新田地区）



## ■ 浸水区域図



標準横断図（床上事業工区）



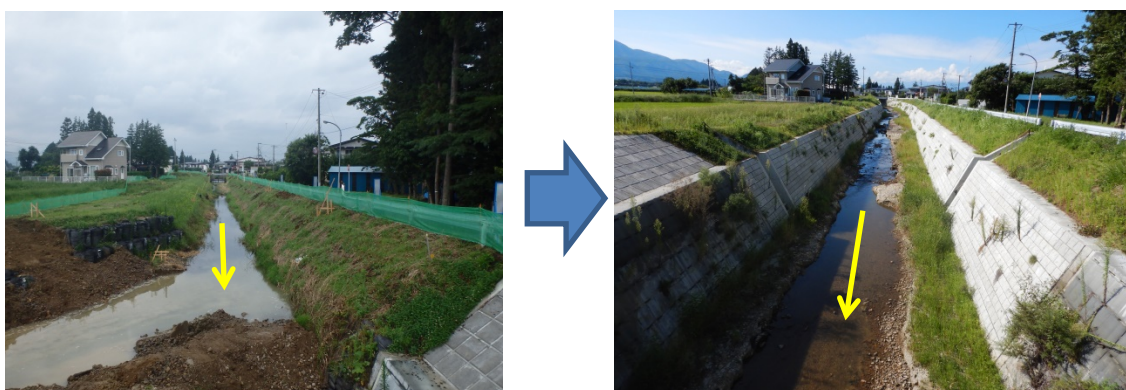
岩崎川は、元々農業用排水路として整備され、流下断面が不足していたことから、川幅を広げるとともに河床を掘込み、流下断面を確保しました。

■ 河川改修工事状況

河川改修工事は、全ての発注が終了しており、令和2年9月末には計画区間の全てで流下断面の確保ができます。このことにより、平成25年8月豪雨と同程度の洪水に対し、家屋の床上浸水の被害を防ぐことができます。



下海老沼橋付近



上海老沼橋付近

■ 河川防災ステーションについて

岩崎川河川改修事業では、川幅を拡幅するとともに河床を掘込み、流下断面を確保することから、広大な残土処理地が必要となります。本事業では、河川の隣接地に残土処理場を確保し、その跡地を「河川防災ステーション」として利用することとしました。通常は公園として活用するとともに災害発生時等には水防活動の拠点として利用することとしています。



# 北いわて建設 ICT セミナーを開催しました！

建設技術振興課

令和2年9月10日、久慈市において、北いわて地域（久慈・二戸・岩泉管内）に本店を置く建設企業を対象に、「北いわて建設 ICT セミナー」を開催し、18企業31名の方にご参加いただきました。

このセミナーは、県内平均と比較して高齢化率が高い北いわて地域の建設業の生産性向上を図るため、ICT 施工に対応した技術者やオペレーターの育成を目的として行ったものです。令和2年度からの新規事業である「北いわて建設技術向上促進事業」に基づき、岩手県と岩手県建設業協会が主催し、初めての開催となりました。

午前に座学、午後に実地で ICT 活用工事の講習を行い、座学では、施工事例や活用方法、ICT を活用したオペレーターの感想等を映像で見るなど、建設業の生産性向上に向け、ICT の必要性を参加者に再認識していただきました。実地では、実際の ICT 建機（バックホウ・ブルドーザー）・UAV・自動追尾型測量機械の操作方法を肌で感じていただき、参加者から非常に参考になったとの声もいただきました。



▲ 受講状況



▲ 座学研修  
（講師 福井コンピュータ株式会社）

## 【講習内容】

### ＜座学研修＞

- 岩手県県土整備部における ICT 活用工事の取組事例  
講師 県土整備部建設技術振興課
- 生産性向上の第一歩「ふだんプラス ICT」  
講師 福井コンピュータ株式会社
- ICT 建機活用の可能性  
講師 日本キャタピラー合同会社、  
サイテックジャパン株式会社

### ＜実地研修＞

- ICT 建機実地研修（バックホウ・ブルドーザー）  
講師 日本キャタピラー合同会社
- UAV・自動追尾型測量機械等実地研修  
講師 株式会社岩手測器社、  
福井コンピュータ株式会社



▲ UAV 実地研修  
（講師 株式会社岩手測器社）



▲ ICT 建機実地研修  
（講師 日本キャタピラー合同会社）





▲ ICT 建機の操作体験



▲ マシンガイダンスシステムの解説状況

## ～補助金制度のご紹介～

岩手県では、県内に主たる営業所を有する建設企業を対象に、現場の生産性向上に向けて ICT 機器を導入する際の経費の一部に対し補助金を交付しています。

### 1 補助対象機器

(1) 既存の建設機械へ ICT を搭載(後付け)

(2D・3D)

- ・マシンコントロールシステム ※写真1
- ・マシンガイダンスシステム

(2) 3D測量機器

- ・3Dレーザースキャナー
- ・自動追尾型トータルステーション
- ・UAV (ドローン) ※写真2
- ・GNSS受信機



写真1：マシンコントロールシステムによる施工

### 2 補助金の額

100万円を上限額とし、当該経費の2分の1以内の額。

### 3 募集期間

例年5月、6月頃から約1ヶ月間募集しています。

(令和2年度分の募集は終了していますが、来年度も募集する予定です。)



写真2：UAV (ドローン) による3次元測量

詳しくは、[岩手県公式ホームページ](#)でご確認ください。

[トップページ](#)>[県土づくり](#)>[建設業](#)>[新技術・経営革新](#) からご確認いただけます。



# 「工業高校の生徒との意見交換会」を開催しました！

建設技術振興課

岩手県の建設産業で働いている女性技術者の集まりである「けんせつ小町部会」において、建設産業のイメージアップによる県内建設企業への入職促進を目的に盛岡工業高等学校 建築・デザイン科の2年生 37 人を対象に、県内で活躍している女性技術者との意見交換会を9月15日に開催しました。

当日は、6班に分かれて「建設業のイメージ」、「就職する際に重視するもの」、「就職へ向けて先輩技術者への質問」等について活発な意見が交わされました。

参加した生徒からは、「直接現場で働く人の声を聞くことで、自分で調べても分からないことを知ることが出来た。」「普段、聞くことが無い同級生の声(考え)を聞くことが出来て良かった。」などの好意的な感想が寄せられました。

これら貴重な意見を参考に、今後も建設産業における担い手確保の取組を行っていきたいと考えております。



【意見交換の状況】



【各班で話し合われた内容の発表】

## 【意見交換会での主な意見】

### ○建設業のイメージ

#### 【良いイメージ】

- ・後世にまで、自分が造ったものが残る。
- ・建物が出来た時の達成感、やりがいがある。
- ・建物を造る楽しさ、喜びがある。
- ・女性でも働きやすくなっている。
- ・身近な存在である。

### ○就職する際に重視するもの

- ・給料が高い。
- ・休みがしっかりしている。
- ・福利厚生がきちんとしている。
- ・家から通うことが出来る。

### 【悪いイメージ】

- ・休みが取れなそう。
- ・肉体労働や怪我が多そう。
- ・上下関係が厳しそう。
- ・女性が少なそう。
- ・残業が多そう。
- ・悪天候でも仕事を行う。

- ・会社がきれい。
- ・離職者の人数が少ない。
- ・希望した仕事内容か。
- ・人間関係が良いか。



# 釜石港にRORO船が試験寄港しました！

港湾課



バック走行で積み込まれるシャーシ

9月1日(火)・8日(火)に、プリンス海運(株)(神戸市)において京浜港～苫小牧港の間を定期運航するRORO(ローロー)船が、釜石港へ試験寄港しました。

今回の試験寄港は、RORO船の定期航路開設を目指している釜石市及び釜石港湾振興協議会(事務局：釜石市)の積極的な誘致活動により実現したものです。

9月1日に仙台港で積載された空のシャーシ(荷台)4台を陸揚げし、9月8日に県内の工場等から出荷された北海道向けの貨物(合板、線材など)を6台のシャーシに乗せて船内へ積み込みました。

9月8日の寄港時には、釜石市の野田市長からRORO船「玄武」の船長に対して仙人秘水の贈呈が行われ、積込作業の終了後、協力企業・報道機関・港湾関係者など約30名が、夕間に消えていく船を見送りました。

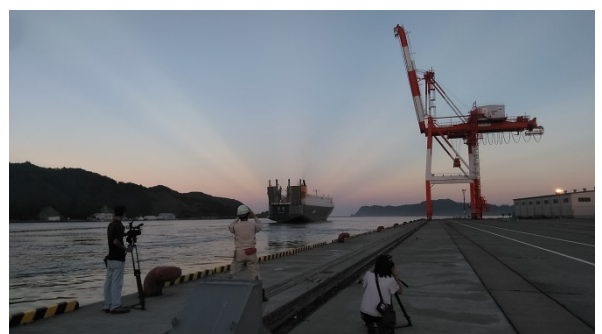
釜石港では以前、完成自動車輸送のためROROR船が定期寄港していましたが、東日本大震災津波後現在まで寄港休止となっています。県では釜石市と連携し、寄港再開や航路拡大に向けて取り組んでいきます。

## 【RORO船とは】

自動車やトラックを自走で積み込み・陸揚げ(ロールオン・ロールオフ)できる貨物船



野田市長から船長への仙人秘水贈呈



苫小牧港に向けて出港する「玄武」



## 令和2年防災功労者内閣総理大臣表彰 県内団体が受賞！

河川課・砂防災害課

国では毎年、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備に功績のあった団体又は個人を表彰しています。

今年度、県土整備部関係では令和元年東日本台風（台風19号）時における防災活動に功績のあった2団体が受賞しました。

### ∞内閣総理大臣表彰 受賞団体∞

#### ◇ 砂防ボランティア岩手県協会

平成9年から23年間にわたり、県、市町村、地域住民と協働して土砂災害危険箇所等の点検を実施するとともに、災害時には緊急点検を実施するなど、土砂災害防止に尽力されました。

令和元年東日本台風に際し、県からの緊急要請を受け、10月21日から11月5日の16日間にかけて、延べ40名が出動し、急峻な地形や流出土砂などにより現地の確認が困難な状況下において、111箇所の緊急点検を実施し、速やかな土砂災害の発生状況や二次的な土砂災害の危険性把握や応急対応、及び市町村の警戒避難体制の構築に役立てられ、地域住民の生命及び身体の保護に多大な貢献をされました。

#### ◇ 久慈市消防団

令和元年東日本台風に際し、5日間にわたり、延べ1,488名が土のう積み工を用いた水防活動とともに、河川等の警戒巡視、排水活動、水門閉鎖、住民の避難誘導、住民1名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をされました。

令和2年9月17日、砂防ボランティア岩手県協会が県土整備部長に受賞報告しました。

